vol.29
平成27(2015)年度

ふれあいネットワーク
社会福祉法人 京都市山科区社会福祉協議会
発行者　佐治俊彦
編集者　吉川　彰
京都市山科区西野大手先町2-1
TEL593-1294
FAX594-0294
E-mail：fukusi08@mediawars.ne.jp
http://www.mediawars.ne.jp/~fukusi08/

# Be-Vo
ビーボ

じぶんの町を良くするしくみ。赤い羽根共同募金
共同募金受配事業
●機関誌Be-Voは共同募金受配事業で作成しています。

目　次

連携して、地域のつながりを結び、強めよう……1
地域福祉活動実践交流会……2
ボランティアセンターだより……3
平成26年度 決算報告……4
共同募金配分金助成金交付説明会
チャリティ BOX

ふくしのまちづくり

●イラストの葡萄の房は、あつまって、ふれあって、豊かな実りをつける社協活動、の意味を込めています

## 連携して、地域のつながりを結び、強めよう

平成27年8月30日に山科区で開催された京都市総合防災訓練の一環として、災害ボランティアセンターをマニュアルに沿って円滑に運営できるよう、山科青少年活動センターで山科区災害ボランティアセンター（以下、区災害ボラセン）設置運営訓練を実施しました。

今回は、障がい者と地域のつながりを作り、強めていくことを目指して、学区社協、民生委員、関係機関等と連携して在宅で障がいのある方のニーズを訪問して把握する訓練も行いました。

## 山科区災害ボランティアセンター 設置運営訓練

### 設置運営訓練

大規模な災害が発生した場合、被災地には全国から多くのボランティアが駆け付けます。区災害ボラセンの役割は、被災されてお困りの方とボランティアをつなぎ、被災者支援を行うことです。

区災害ボラセンは、大規模災害の発生後３日以内を一つの目安として、山科区役所の要請に基づき、山科区社会福祉協議会が設置することとなっており、社協職員の他、災害ボラセンサポーターなど多くの方の協力を得て運営します。

▲山階学区に協力いただいての訪問訓練

全国からのボランティアを受け付ける訓練。橘大学防災サークルも協力▼

### ニーズ把握訓練

在宅で被災されている障がいのある方からの困りごと相談を受けた東部障害者地域生活支援センター「らくとう」から、区災害ボラセンに詳細なニーズ把握の依頼があったという想定のもと、区災害ボラセンは、地域の実情に詳しい学区社協と民生委員に相談します。学区社協と民生委員は連携して、障がいのある方の自宅を訪問し、ニーズの詳細を聞き取り、区災害ボラセンに報告する訓練です。

「災害による生活環境の変化で、普段は対応できる日常生活のあれこれに支障が生じるかもしれない」等、学区社協と民生委員が地域として、支え助けあえることは何かを考えながら訪問に向かいました。

# 地域福祉活動実践交流会

## ～地域福祉を推進するための学区社協と民協の連携・協働について～

地域福祉の一層の充実と発展に向けて活動していくためには、学区社協と民生児童委員との連携がこれまで以上に重要となってきます。地域福祉活動の実践を学びあう機会として、平成27年8月6日に山科区民生児童委員会と共催で地域福祉活動実践交流会を実施しました。

### 各学区で、学区社協と民協が連携している取組を紹介

**鏡山学区**（学区社協 栗津圭市会長）

各種団体から学区社協の理事に就任してもらって、それぞれの活動への理解を促進しています。

民生委員は地域のニーズを学区社協が運営している学区ボランティアセンターにつなげる役割を果たしています。

最近では、地域ケア会議でも情報共有を行うようになりました。

地域福祉活動をいかに効果的に、また効率よく進めていけるかは、お互いの活動を理解することが第一歩だと考えています。

**安朱学区**（学区社協 中澤博子会長）

学区の防災ボランティア等で活躍されていた高齢の方が、数年前から物忘れが目立ち、簡単な作業でも混乱されるようになりました。

学区社協の役員から民生委員に連絡し、そこから地域包括支援センターや親族、民生委員、学区社協とで在宅での生活の支援を考えるきっかけとなりました。

学区社協と民生委員が連携していくことで、担い手の数も増え、できることが広がっていくと期待しています。

西野学区　意見交流

音羽・音羽川学区　意見交流

### 意見交流

- 事業の協働やある程度の情報共有はできているが、より一層の連携ができれば、細部にまで行き届いた支援活動ができるのではないでしょうか。
- 高齢者の増加に伴い、学区社協と民生委員は今後ますますの連携が必要となるでしょう。特に災害時に普段の密な連携が力を発揮すると思います。
- 学区社協、民生委員がそれぞれの得意な活動を尊重し合いながら、活動を進めていることが良い結果につながっていると思います。

# 山科区ボランティアセンターだより

## 山科ユースアクション2015

ユースアクションは、中高生を対象に福祉やボランティア活動への関心を持つきっかけづくりとして、夏休みに3日程度のボランティア活動を体験する事業で、今回で21回目となります。山科区内の児童・高齢者・障がい者福祉施設やボランティアグループに協力いただき、山科青少年活動センターとの共催で、7月に開催しました。

レクリエーションや配膳等の作業の補助を通じての施設利用者とのコミュニケーションや施設職員とのかかわりの中から多くの学びがあり、福祉活動や就業の体験として非常に有意義な機会です。

参加いただいた中高生から、「『ありがとう』や『がんばってね』と言われたのが嬉しかった」「保育士になりたいという思いが強くなった」等の声をいただいています。

若い世代が福祉に関心を持ち、福祉の仕事やボランティア活動の担い手となって、福祉のまちづくりを進める力の一つとなってほしいと考えています。

毎年6月に区内の中学・高校を通じて参加を呼びかけています。区外の学校に通学されている方は区社協にお問い合わせください。

施設での体験

## 山科ボランティアグループ連絡会

山科ボランティアグループ連絡会は区内で活動するボランティアグループで構成し、ボランティアグループ間での情報交換や、区社協と協働して研修やイベント等の企画運営を行い、活動の活性化や地域福祉の推進に取り組んでいます。

今年度の研修は、区内で活動するボランティアにも参加を呼びかけ、認知症あんしんサポーター養成講座を8月に開催しました。

区内で活動されているボランティアグループの連絡会への加入も募っています。

認知症あんしんサポーター養成講座

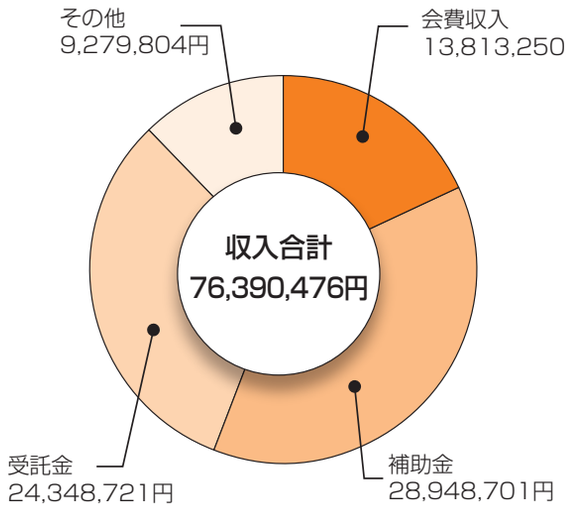
# ボランティア講座のお知らせ

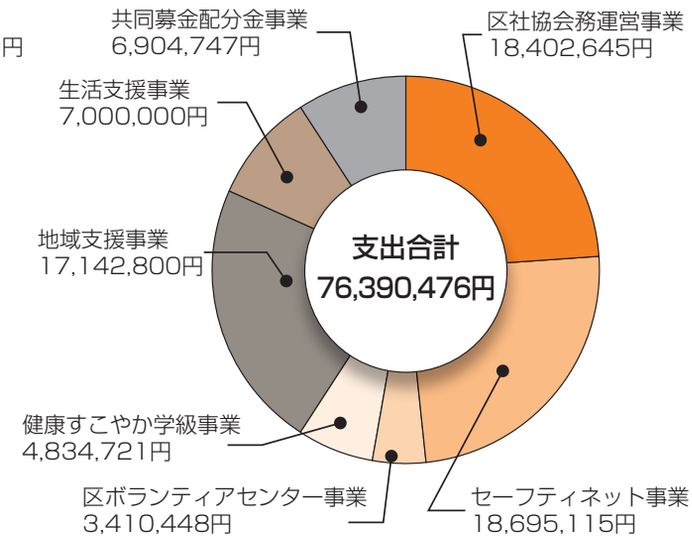
## 要約筆記ボランティア入門講座

中途失聴・難聴者のコミュニケーションの方法として、話し言葉の要点をまとめ、リアルタイムで書いて伝える技術「要約筆記」を学びませんか。「要約筆記」が役立つ場面は、日常生活の中にたくさんあります。

- ●日　時／平成28年2月6日、2月13日（土曜日）（全2回）13：30～16：00
- ●会　場／山科総合福祉会館
- ●定　員／30名　※定員になり次第、締切
- ●共　催／京都市山科身体障害者福祉会館
- ●協　力／ＮＰＯ法人京都市中途失聴・難聴者協会山科支部、京都市要約筆記サークル“かたつむり”（山科）
- ●申　込／山科区ボランティアセンター　TEL.593-1294　FAX.594-0294

## 山科区社会福祉協議会 平成26年度 決算報告




## 共同募金配分金助成金交付説明会

共同募金配分金による事業助成が決定した団体と、山科区社協財務委員、山科区共同募金会、京都府共同募金会が一堂に会し、共同募金の全国的な動きや現状について認識を深めるとともに、助成金の使途の透明化を図ることや有効な利用方法について考えることを目的に、平成27年7月28日に開催しました。

共同募金配分金助成金の交付に際して、福祉施設、ボランティア団体、福祉関係団体が助成金の使途を説明し、今後の活動への支援を呼びかけました。

助成金の使途を説明

## チャリティBOX

平成27年1月～平成27年3月

山科区社協法人設立20周年に協賛いただきました。

■匿名様
￥100,000円
（平成27年2月25日）

■医療法人社団恵仁会様
￥10,000円
（平成27年3月12日）

## 赤い羽根共同募金にご協力ください

ご協力いただいた共同募金の多くは、社会福祉協議会を通じて、山科区の住民全般の福祉活動や高齢者、障がい者、児童・青少年のための福祉活動等に役立てられます。